

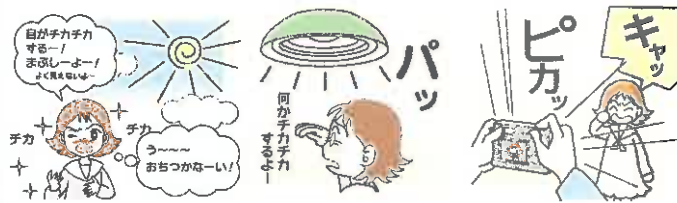


まごころ園

やさしい照明

障害をもつ方の中には、「感覚の特異性」を持つ方が少なくありません。

聴覚や味覚などの感覚が過敏だったり、逆に鈍感だったりすることがあるのです。例えば、周囲の人が思っている以上にうるさく聴こえたり、痛く感じたり、臭く感じたり・・・

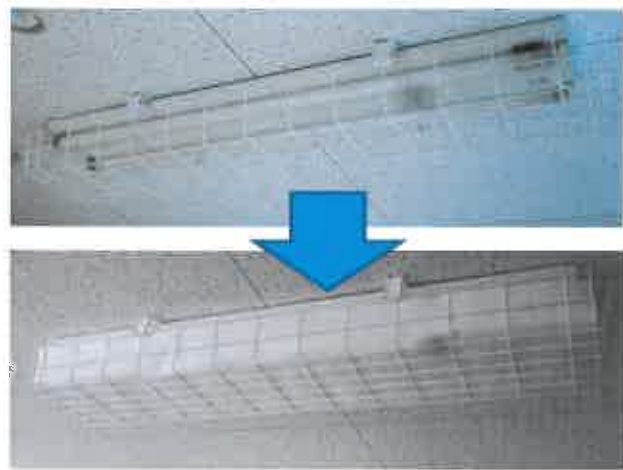


視覚過敏の例 (アスペルgerの会発行の冊子より)

▼障子紙の効果！

R君は着替え中、天井の方が気になって集中できず時間がかかっていました。まごころでは視覚過敏があっても安心して過ごせるよう、蛍光灯の内側に障子紙を貼ってありますが、更衣室には貼っていませんでした。

「もしや・・・」と思い、



更衣室の蛍光灯にも障子紙を貼ってみたところ効果テキメン！気が逸れることなく集中して着替えることができました。

今まで貼り忘れていたことを反省・・・我々には見えない、蛍光灯の細かい明滅がどうやら気になっていたようです。

少しの工夫で「過ごしやすい、やさしい」環境になるのだということを改めて実感しました。

デイサービス通信

デイサービス見学



今年に入って、デイサービスを見学された方が2名ありました。

その2名の方も、兄弟やご家族連れでみえました。丁度「節分の鬼面飾り」を作っている最中だったり、豆まきのレクレーションをご一緒したりと体験もしていただきました。暖かくなったら、ご利用されることと楽しみです。

一日通しての体験(お試し利用)の場合は送迎も含め、昼食も食べて頂き500円です。デイサービスまごころは月・水・金の3日間みの開所ですが、まだまだ定員に少しの余裕があります。

入浴の設備はないのですが、池田温泉の湯でゆったりと足湯がくつろげて好評です。笑うヨガや体操、脳トレ運動をしたり、緑の多い公園の散歩や季節に合わせた作品作りやおやつ作りなど、5時間半の長さすぎない小規模のデイサービスです。いつでも見学や体験をしてご覧ください。

2月は節分とバレンタインデーの行事を楽しみました。3名のお誕生会も行い、それぞれの誕生日に近い来所日にお祝いしました。

また、色とりどりの「吊るし雛飾り」を皆さんに作っていただき広場に飾りました。2月の雪の日にも広場はすでに春を迎えていました。



絵：尾関幸代

心づれ

子どもとして尊重されることの重要性

NPO法人 MOVE
理事長 佐伯 千代美

子どもの意見を尊重するために大人に必要なものとは何でしょう。

家庭でも学校、サービス事業所でも大人に「ゆとり」が必要です。子どもとの関係が保てる時間が保障されているのでしょうか。つまりこの権利は家庭や学校、サービス事業所のあり方を問われているものだということがわかります。泣き声や視線、指差しで子どもが伝えようとしている思いにみなさんはどのように聞いてどのように対応されていますでしょうか。

現在では子どもを取り巻く環境がさまざまな分野で急速に変化してきました。不幸な報道も後を絶ちません。家族としての機能はどのように変化してしまっているのかに疑問さえ感じてしまいます。

子ども時代に重要なことは、自分は大切に育てられているという実感を実感に持てることではないかということ、これまでの子どもから大人の方の支援に携わって強く感じています。それは家族だけが担うのではなく、地域社会のあちらこちらでも必要な支えでもあります。自分は大切に育てられてきたという実感を抱きながら、自分を大切にしながら生きていけるのではないのでしょうか。それによって他者を大切にでき、他者のために働く力もついていくのではないかと考えさせられることも多くあります。

子どもを大切に育てる形は人さまざまかも知れませんが、子どもの権利を大前提に振り返り、ゆとりを持って考えてみることも時には必要ではないかと思うこの頃です。

子ども・家庭を大切にできる地域づくりを目指して、それぞれの機関が連携していける土壌をこの一宮市で大切にしていけたらと心から願ってやみません。

ヘルパーだより

NO.22

A子さん77歳(要介護3)は日中独居でデイサービスやショートステイ、訪問介護を利用されていました。

「こんにちは、まごころの〇〇です」とA子さんの部屋を訪れると、暖かい日差しを浴びながらにこやかな笑顔を見せて下さいました。お元気な頃の仕事のこと、先立たれたご主人とのエピソード等をお聞きするのが、私も楽しみでした。

車椅子のA子さんでしたが、家族の方にも弱音を見せない所があり、「まだまだ自分でやれる」と頑張っておられました。昼食の準備や排泄の介助等の30分の短い時間でしたが、ヘルパーにとっても共に共有できる大切な時間でした。

最後の訪問から2日後、Aさんが亡くなられたとの知らせを聞いたときには、あまりに突然な別れに「えっどうして？」とまったく信じられませんでした。

何か支えになることは無かったか？

もう少しやれることは無かったか？

と悔やまれます。

その方の人生最後のお手伝いがヘルパーの仕事と思っていますが、急なお別れも寂しいです。Aさんを一生懸命支えておられた家族の方にも、心よりご冥福をお祈りいたします。



ご家族からのことば・・・

ヘルパーさん、デイサービス、ショートステイのスタッフさんには本当に良くしていただきました。何より、私たちが一番支えられていたように思います。ありがとうございました。

